

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>肢体不自由等の障がいのある児童生徒たちの将来を見据え、一人ひとりのニーズを的確に把握し、小・中・高一貫した教育活動において学力の基礎・基本を身に着けるとともに、キャリア教育を推進し、自立と社会参加へ向けて積極的に学ぶ人間の育成をめざす。</p> <p>1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校 2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校 3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校 4 児童生徒の卒業後の自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校</p>

2 中期的目標

<p>1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校 (1) 学習指導要領に基づいた段階別の系統性を持った教育課程の編成を行い、個別の指導計画に基づいた教科学習を位置づける (2) シラバスとキャリアプランマトリクス関連性を確立させ、発展性のある教育活動の向上をめざす</p> <p>2 地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校 (1) 大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上。 (2) 教育実践×ICT機器の活用に向けた教材・支援機器の活用実践を進め、その授業実践を蓄積する（ICT機器活用実践の蓄積⇒令和4年度より各年度20事例×3年【R4 22事例】）</p> <p>3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校 (1) 日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。 (2) 保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくり。 (3) 業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革</p> <p>4 児童生徒の卒業後の将来を見据えた自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校 (1) 早期からのキャリア教育の充実を推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。 (2) 地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上し追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 系統性・発展性のある教育活動を推進する学校	<p>(1) 学習指導要領に基づいた段階別の系統性を持った教育課程の編成</p> <p>(2) シラバスとキャリアプランニングマトリクスの関係性を確立する。</p>	<p>ア・イ共通 教育課程検討委員会において校内の学習内容を確認しその系統性、発展性のある学習内容になるよう精査を進める。</p> <p>ア 試案を作成したシラバスとキャリアプランニングマトリクスの関連性を示す様式を活用し、教職員の理解深化に務める。</p>	<p>ア 教育課程検討委員会を開催し全校的な学習の系統性、発展性を確立させる ⇒年3回</p> <p>イ III類型（自立活動を主とした教育課程）において学習内容の見直しを進め、授業と教育課程のつながりを明確化しコミュニケーション（国語・ことば）や認知（かず・算数・数学）について教科化を進める ⇒かず・ことば（2教科）の教科化</p> <p>ア 試案の本格活用を進め、理解深化に務める。学校教育自己診断（教職員）教育活動における評価及び次年度の計画に活かすの項目前年度以上 ⇒【R4 84%】</p>	

府立中津支援学校

<p>地域における教育・関係機関との連携を推進し、特色ある教育活動を発信する学校</p>	<p>(1) 大阪整肢学院との連携を継続し、適切な実態把握と一人ひとりのニーズに基づいた「身体への教育的アプローチ」を含む自立活動指導の向上。</p> <p>(2) 教育実践×ICT機器の活用に向けた教材・支援機器の活用実践を進め、その授業実践を蓄積する</p>	<p>ア 大阪整肢学院リハビリテーション部と連携した研修会の実施 リハビリテーション部のセラピスト(OT, PT, ST)による勉強会の実施</p> <p>イ 児童生徒への「身体への教育的アプローチ」教職員の理解の深化に務める</p> <p>ア 教職員の「一人1研究」において成果物を作成することで実践事例を蓄積</p> <p>イ ICT・支援機器の活用や校内での支援教育の実践を校外へ発信する</p>	<p>ア アンケートによる肯定的回答⇒75%以上</p> <p>イ 「FBM」「スパイダー」「スノーズレン」等において外部講師を招聘し、効果検証型事例検討会を行う⇒年2回以上</p> <p>ア 実践事例・教材教具の原稿作成成果物の作成⇒23以上 【R3⇒15/R4⇒22】</p> <p>イ 蓄積している実践事例について、冊子作成を行うための試案の作成⇒R3・R4の蓄積事例の整理【37事例】</p>	
<p>3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速な対応ができる学校</p>	<p>(1) 日常的な危機管理を徹底し、児童生徒が「大切にされている」と実感できる安全で安心な指導・支援を行う。</p> <p>(2) 保健・安全・衛生管理・防災等に関して大阪整肢学院と連携し学びを支える環境整備を行う学校づくり。</p> <p>(3) 業務負担の見直しや適正化を進め教職員の健康管理と意識改革</p>	<p>ア 外部講師を招聘し、児童生徒の人権について理解を深める</p> <p>イ 児童生徒に関する問題事象について意識向上を図る</p> <p>ア 教職員による医療的ケア実施体制の構築</p> <p>イ 大阪整肢学院や地域の関係機関と連携し共同訓練や研修を行う</p> <p>ア 校務全般に係る業務の見直しと校務分掌の再編</p> <p>イ 教職員の健康管理と意識改革</p>	<p>ア 「社会的養護」の必要な児童生徒の理解と支援について 子ども家庭センター職員による研修の実施⇒年1回</p> <p>イ 年度内のインシデント事象の事例集を作成し事例検討する⇒年1回</p> <p>ア 学校看護師による教職員の手技確認機会を設定する(年4回) 医ケア担当者以外の教職員へのシミュレーター研修の実施⇒(各学部年1回)</p> <p>イ 教職員と大阪整肢学院職員による防災に係る共同研修を開催⇒学校教育自己診断(教職員)防災に関する項目 今年度以上 【R4 90%】</p> <p>ア 校務スクラップ PT および校務分掌再編PT会議により業務の見直しを図る(5項目以上の校内業務のスクラップおよび8分掌⇒6分掌に見直す)</p> <p>イ 全校一斉定時退庁日の確実な実施と首席・部主事会において、グループウェアの活用について協議を行い、会議の時間短縮具体的方策の導入。 ⇒学校教育自己診断(教職員)新規項目(60%以上)</p>	
<p>4 児童生徒の卒業後の将来を見据えた自立と社会参加に向けより高い専門性・支援力を追求する学校</p>	<p>(1) 早期からのキャリア教育の充実推進し、児童生徒一人ひとりの自主性・自立性を育成する。</p> <p>(2) 地域への貢献と支援教育に関する専門性を向上し追求する姿勢をもちながら、支援教育の充実を推進する。</p>	<p>ア 早期からのキャリア教育の充実</p> <p>イ 高等部段階における自主性・自立性の育成</p> <p>ア 地域における支援教育力の向上をめざし専門性の向上を図る</p> <p>イ 障がい理解推進のための取組みを進める</p>	<p>ア 小・中学部におけるワークキャリア体験として清掃/委託作業活動における授業の実施 ⇒(年2回)</p> <p>イ アパレルメーカー主催のプロジェクトに参加し、SDGsの学習や地域と連携した子ども服の回収活動を行う。 ⇒地域連携機関との連携(年2回)</p> <p>ア リーディングスタッフ1人を令和5年度国立特別支援教育総合研究所特別支援教育専門研修員に派遣 肢体不自由専修プログラム受講予定 ⇒1人</p> <p>イ 大阪音楽大学の大学生との交流活動 ドラムフェスタの実施 ⇒(年1回)</p>	